



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2014-2015年度 国際ロータリーのテーマ

2014年



クラブ会報・情報委員会

LIGHT UP ROTARY
R.I 会長 ゲイリー C . K . ホアン

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。
パストガバナー 前原 勝樹

会長 坪井 良廣 幹事 須永 博之

後藤圭一・桑原志郎・塚越平人・吉野雅比古・立澤俊明

9月29日号

第2915回例会
(9月22日(月)第3例会)

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 点 鐘 | 9. 幹事報告 |
| 2. ロータリーソング斉唱 | 10. 委員会報告 |
| 3. 来訪者紹介 | 11. 青少年交換(短期)プログラム帰朝報告 |
| 4. ロータリー情報アワー | 12. 卓 話 「米山記念奨学事業について」 第2840地区米山記念奨学委員長 田中 久夫 君 |
| 5. 米山功労クラブ表彰 第38回桐生ロータリークラブ | |
| 6. 米山功労者表彰 | |
| 7. 出席100%表彰 | 13. 点 鐘 |
| 8. 会長の時間 | |

ようこそピジター

卓話者 第2840地区米山記念奨学委員長 田中 久夫君(高崎RC)
青少年交換学生 四つ葉学園中等教育学校 柴崎 はるな 様 ・ 保護者 母 亜由美様

ロータリー情報アワー

会員研修副委員長 北川 洋 君
当桐生 RC 創立 60 周年記念式典・祝賀会を皆様と共に平成 25 年 3 月 9 日に桐生プリオパレスにて開催致しました。覚えておりますか？早いもので一年半経ちました。日々忙しくて忘れていたでしょう。私もすっかり忘れてました。それなので、せっかく創立 60 周年を開催致しましたので、もう一度考えたらと思いましたが、取上げました。簡単にご説明致します。平成 24 年～25 年は、正田ガバナーの元で【地区大会】があり、全会員が全力を尽くして準備をしておりましたので、3 月 9 日の記念行事は、頭の外にあった様です。この様な状態で 60 周年記念行事がちゃんと出きるかと思い大友幹事始め関係者は、痩せる思いでした。やはり私は、痩せました。65kg の体重が 57kg 位になりました。8kg も痩せました。今は調子が良いです。ダイエットは、簡単です。桐生 RC 会長をして、記念行事をすれば直ぐ痩せます。さて、何はともあれ、お陰様で 60 周年行事が皆様のお力で終わりました。ありがとうございました。特に準備にご協力を得たのは、幹事の 大友さんや桑原さんでしたが一生懸命考えてくださいました。ありがとうございました。記念式典にて金子実行委員長が記念事業の発表を行いました。それは、
国登録有形文化財桐生倶楽部会館修繕備品一式
重要伝統的建造物群保存地区案内モニュメントー基
南三陸町歌津地区小中学校の為の教育基金へ寄付
記念宣言では、プログラムにも印刷し、会場ではプロジ

ェクターで映し出され、金子実行委員長が 5 項目の長期計画を読み上げました。

1. 東日本大震災という未曾有の災害を経験し、人と人との絆を大切に活動を行うクラブであること
2. 次代を担う子ども達に希望を与える活動を行うクラブであること
3. 地域に根差し、地域とともに歩むクラブであること
4. 平和を願い、国際貢献を実践するクラブであること
5. 他の奉仕団体と連携し、支援し、行動するクラブであること

その後、祝賀会を開催致しました。総勢 170 名が出席し名司会者は、水越稔幸会員でした。この日の為に制作した「60 年の歩み」映像集を放映(これは桑原志郎会員のなみなみならぬ努力の結集でありました)大変楽しく観させてもらいました。そして、又「60 周年記念マーク」も紹介しました。(これは大友幹事が考えてくれたものです。デザインも美しく立派でした)そのマークは、今も桐生に残り、織物の歴史を伝えている「のこぎり屋根」から真っ赤な太陽が昇りゆく様子をシンプルにデザインしてあります。その様な訳で祝賀会も和やかな時間を過ごさせてもらい終了しました。皆様のご協力大変感謝しております。





第 38 回 米山功労クラブ表彰

米山功労者表彰

- 第 6 回 日野 昇君
- 第 5 回 前原 勝君
- 第 3 回 牛腸 章君
- 第 2 回 森 末廣君
- 第 1 回 桑原志郎君



出席 100% 表彰

- 舘 盛治君 29 回
- 吉田栄佐君 23 回
- 野間義弘君 9 回
- 村田勝俊君 8 回



会長の時間

最初に、2016年-2018年会長幹事候補のご報告をいたします。9月4日(木)吉野家にて指名委員会が開催されました。次々年度会長に吉田栄佐君が指名されました。又、次々年度幹事に吉田栄佐君より、柳 明彦君が推薦されました。これから、大変ですが宜しくお願いします。

皆さんご承知と思いますが、ケンタッキーフライドチキンのカーネルサンダースの立像はロータリー徽章(バッチ)を付けています。これは、カナダ店の倉庫に眠っていたものを日本のケンタッキーフライドチキン幹部が持ち帰ったのが始まりだそうです。サンダースはロータリークラブのメンバーでもあり、多くの慈善活動もおこない、孤児院の子供のために毎日アイスクリームを提供したり、肢体不自由児のための基金をつくったりしているほか病院や医学研究、教育、ボーイスカウトなどの活動に資金を提供していました。

(報 告)

- ・9/8 臨時理事会
- ・9/10 会員増強推進全体会議
- ・9/13 米山奨学セミナー
会長・会長エレクト・幹事・高橋米山奨学委員長 出席
- ・9/15 休会
- ・9/17 新会員刈りインテ-ション 終了後懇親会
- ・9/21 RLIセミナー 会長エレクト・副幹事 出席

(予 定)

- ・9/24 親睦活動委員会家庭集会
- ・9/28 地区大会ゴルフコンペ
鳳凰ゴルフ倶楽部 12名参加
- ・9/29 ガバナー公式訪問

幹事報告

- ・米山奨学会より「ハライトよねやま」が届いております。
- ・日本てんかん協会より「からっかぜ」が届いております。
- ・第 2530 地区福島にこらんしょ実行委員会より「友愛スポットのご案内」が届いております。
- ・桐生災害支援ボランティアセンターより「東日本大震災援助活動報告」が届いておりますので、各テーブルに配布してあります。
- ・桐生中央RCより現況報告書が届いております。
- ・桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城の各 RC より週報到着。
- ・ガバナー事務所より「広島豪雨災害義援金のお願い」が届いておりますので、1人当たり1,000円以上のご協力をお願い致します。
- ・桐生RCのイベントブルゾンを新規作成することになりました。11月に夢計画の実施に間に合うように作成しますので、サイズ確認等ご協力をお願い致します。費用は、半額個人負担となります。
- ・次回9月29日(月)例会は、竹内ガバナー公式訪問日です。全会員の出席をお願い申し上げます。後日 FAX でご連絡致しますが、上着・ネクタイ・ロータリーバッチの着用をお願い致します。例会場の途中入退室は、ご遠慮下さい。桐生倶楽部玄関前で写真撮影の予定ですので、駐車禁止とさせていただきます。会員の皆様は、他の駐車場をご利用ください。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成 26 年 9 月 22 日)

総員 64 名:出席 44 名

平成 26 年 9 月 1 日例会修正出席率:93.4%

☺ ニコニコボックス

疋田博之君、松島宏明君、森末廣君、柳明彦君、大友一之君、高橋弘史君...田中地区米山記念奨学委員長をお迎えして/川村隆...第 2840 地区米山記念奨学委員長、高崎RC会長卓話ありがとうございます/木村洋一君...戦わないのに選手宣誓をし、しかも上毛新聞に掲載してしまひまして、アリバイが崩れました/舘盛治君、野間義弘君、村田勝俊君...出席 100% /坪井良廣君、竹内靖博君、荒木千恵子さん、大島千賀子さん、岡野紀子さん、小林雅子さん、田中一枝さん...写真を戴きました。

米山奨学委員会

疋田 博之 君 20,000 円

卓 話



「米山記念奨学事業について」
第 2840 地区
米山記念奨学委員長
田中 久夫 君

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本の全ロータリアンが参加し、推進している事業で、日本で学ぶ外国人留学生へ奨学金を支給し、支援しています。1年間に全国で約 700 人、これまでに 123 カ国から 18,104 人を支援しています。日本には、外国人留学生を対象とする民間奨学団体が 111 団体ありますが、米山はその中で最大の事業規模です。今後、海外からより多くの留学生を呼び寄せようとしている日本の留学生政策 2 にも大きく貢献しています。

2「留学生 30 万人計画」2008 年に福田康夫首相(当時)が打ち出した、2020 年を目途に海外からの留学生を 30 万人(現在約 14 万人)に増やすというもの。

米山の 1 番の特徴は、規模が大きいことではありません。“世話クラブ・カウンセラー制度”によって、毎月(奨学生によっては毎週)、例会に参加し、ロータリアンと交流することにあります。この交流こそが、ロータリーがめざす平和への第一歩です。人は、人生のなかでさまざまな人と接しながら、学び、変わっていきます。ある人との出会いが、人生を変えることも多々あります。米山奨学生は、たくさんの国の中から日本を選んで、専門知識を学びに来た、優秀な人材です。将来の世界を支える彼らに、日本人の“心”、ロータリーが求める平和への願いを理解してもらい、大きな大きなチャンスです。戦争や領土問題などによって、民間交流は時に途切れそうになったり、互いが不信に陥ることもあります。けれども、国民同士の友情なくして真の平和はありません。政治や国というフィルターのない、人と人との交流の積み重ねこそが、絆を少しずつ強くします。

皆さんの米山に対する日頃のご支援に心から感謝申し上げます。つづいて、財政状況、地区の寄付状況についてご説明します。米山に寄付していただいたお金は、全額、奨学事業に使われています。

理事会などの“会合費”や“借室料”、管理部門の事務局人件費などの管理費支出は、“資産の利子収入”で賄っており、いただいた寄付はすべて奨学事業だけに使われています。ただ、寄付は近年不足しています。

昨年度の寄付金収入は 12 億 9,500 万円だったのに対し、奨学金と補助費(地区や世話クラブへの補助費)の支出は 14 億円だったため、不足分は特別積立財産から取り崩して補いました。しかしこの特別積立財産も、取り崩しの最低ラインである 25 億円になってしまったため、今後は奨学生数を 800 人から 700 人に減らして事業費を抑えることになります。

2013 年度は 1 億円の黒字決算となりました。これを受けて、2015 学年度は 20 名奨学生採用数を増やしています。

当地区の実績・・・平均寄付額 17,714 円(10 位)

特別寄付(任意)をした人・・・73.4 %

全国平均・・・41.2%。 最大(2650)・・・80.8%

米山は公益財団法人ですので、米山への寄付は、所得税・法人税の税制優遇が受けられます。「税額控除」と「所得控除」、どちらか有利な方を選択することができます。「税額控除」とは、寄付額の約 40%を、所得税額から直接控除することができるもので、所得控除よりも控除額が大きくなる場合があります。例えば、課税所得額が 750 万円の方が 10 万円寄付した場合、3 万 9,200 円も所得税が還付されます。特別寄付金のほか、クラブから会員数分お送りいただく普通寄付金も控除の対象です。他の団体の領収証と合算して、年間 2,000 円以上の寄付でメリットがあります。法人の特別寄付についても、法人税が軽減されます。このような寄付のメリットをご活用いただきながら、ぜひ、毎年のご支援をお願いいたします。

ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1 人当たり 16,000 円となっております。地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。

1 人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いします。

米山学友の活躍

そのうちの 1 人をご紹介します。

中国の姫軍(キグン)さんは、多くの日本企業を顧客にもつ弁護士で、ヤマハ発動機を原告とする商標権侵害訴訟では、過去最高額での全面勝訴を勝ち取りました。昨年、日中関係が悪化した際は、中国にいる日本企業や駐在員の安全のため、24 時間ホットラインを設けて無料相談を受けたそうです。彼はまた、2007 年から毎年 50 万円もの寄付金を米山奨学会へ送りつづけてくれており、中国学友会を正式に発足させた初代会長でもあります。

ここで、一つのエピソードをご紹介します。

2010 年の夏、中部名古屋みらい RC が中国学友会(北京分会)を訪ねて、一緒に養護施設の子供たちを訪問しました。この日は 9 月 18 日。満州事変が起きたこの日は、中国全体で、日本への反感が最も高まる日です。しかし、中国学友会も、養護施設の子どもも、職員も、ロータリーの一行を快く迎えました。

中部名古屋みらい RC 会長として参加した会員は、

「この経験があったからこそ、その後、日中間にどんなことが起ころうとも、お互いを理解し、思いやる気持ちに変わりはありません。この交流が誇りとなり、支えとなり、「動じない強い心」になっています」と、語っています。奨学期間が終わったあとも、ロータリーとの接点を持つために有効な組織が学友会です。学友会は、元奨学生と現役奨学生によって組織されるもので、日本国内に 31、海外には台湾・韓国・中国・タイにそれぞれ学友会があります。活動内容は学友会によって異なりますが、被災地のボランティア活動や、地区大会で母国のお茶サービスをするなど、さまざまな活動をしています。

そして、2014 年 3 月には、モンゴルで海外 6 番目の米山学友会が誕生しました！

さて、日本のロータリーは、なぜ独自の奨学財団を作り、外国人留学生を支援しているのでしょうか。

米山奨学事業は、日本のロータリーの黎明期を支えた大先輩たちの手で作られ、脈々と受け継がれてきた日本独自の事業です。

日本で最初のロータリークラブを創立した米山梅吉氏が1946年に亡くなったあと、“米山梅吉”の名を永遠に偲ぶことができるような、有益な事業をやるのではないかと、ということで、1952年、東京RCが「米山基金」を立ち上げました。なぜ、外国人留学生への奨学金という事業が選ばれたのか、いくつか理由はあったようですが、戦後の復興へと向かい始めた当時、「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、“平和日本”を肌で感じてもらいたい」という、当時の日本のロータリアンたちの強い思いがありました。東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業となりました。

当時のロータリアンの言葉をご紹介します。

1952年11月4日、東京RCの古沢会長が発表した「米山基金」は、アジアの優秀な学生を日本に招いて、研究させたいというものでした。この日提出された「米山記念奨学金(略称・米山ファンド)設定の趣旨」の最後の一文に、この構想にかけた並々ならぬ意気込みを見ることができます。

「これ実に翁の生前意図されたロータリー事業の一つであり、われらまでもって翁の遺徳をたたえる無形の金字塔となさんとするものであります」

古沢氏は、「大連宣言」で知られる優れた思想家ですが、彼がロータリー人生の最後に情熱を傾け、奉仕の実践に取り組んだのが、米山奨学事業でした。

古沢氏は、第1号奨学生のソムチャードさんの帰国を見届けることなく、1955年に亡くなりました。その3年後、ソムチャードさんがいよいよ母国へ帰る日、東京RCの新田義実氏(にった・よしみ、のちに米山奨学会副理事長)がバンコクRCへ宛てた手紙の一文をご紹介します。「いよいよソムチャードさんが日本での勉学を終え、帰国します。彼は4年間、日本で多くのことを学びました。楽しいことばかりではなかったと思いますが、人間は基本的に同じであるとわかってくれたはずですよ。これは、ロータリーにおけるわれわれの信念であり、人は世界の人々と友情を育むことができるのだと、われわれは証明したいのです。今からソムチャードさんはあなたの方へ帰ります。あなた方は彼を誇りに思ってくださいませ」

米山奨学事業は、日本のロータリーが世界に誇ることのできる国際貢献事業です。教育への投資は、国際親善と友好に、計り知れない波及効果があります。

そしてこの事業の根幹は、日本に来てくれた留学生に、ロータリーの心、日本人の心を伝え、お互いに信頼関係を築くことで、世界の平和と発展に貢献することです。日本のロータリアンたちが受け継いできた米山記念奨学事業は、今を生きるわれわれロータリアンの誇りでもあります。先輩たちがつないできた米山の灯を消すことなく、次の世代に伝えていくために、米山の灯をますます燃やし続けましょう！

帰朝報告 ～短期交換を終えて～



2014-15年度 夏期交換学生
四ツ葉学園中等教育学校
柴崎 はるな さん

6月17日～7月14日
Elizabeth Marie Brunelle
来日。



7月14日～8月13日
アメリカ ウィスコンシン州 へ



Holmen Rotary Club とバナー交換



【例会予告】

10月6日(月)

卓話 桐生市長 亀山 豊文 様
食事 友 奴

10月13日(月) 休 会

10月20日(月)

優良従業員表彰
食事 壺美久

10月27日(月) 桐生第一高等学校

インターアクトクラブ創立30周年
記念式典
食事:18時
点鐘:18時30分